

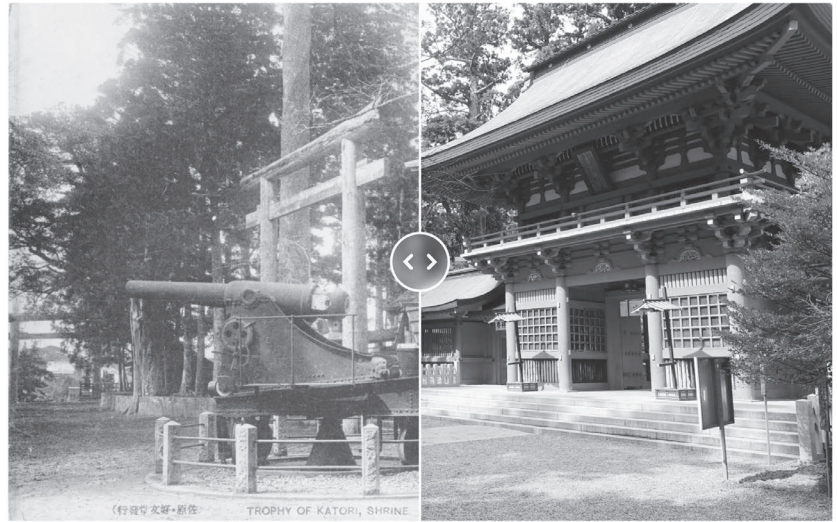
ちばの博物館

<http://www.chibahaku.skr.jp/hp/>

発行・編集
千葉県博物館協会
〒260-8682
千葉市中央区青葉町955番地
千葉県立中央博物館
TEL.043-265-3111

未来へつなぐ、いくつもの千葉 —千葉県立中央博物館—

千葉県立中央博物館（本館）は、房総の自然と人間を常設展示の全体テーマとし、千葉県の自然と歴史について学べる総合博物館として平成元年に開館しました。常設展示は、房総の自然誌、房総の歴史、自然と人間のかかわり、の3つの主要な展示から構成されています。隣接する生態園では、房総の代表的な自然が再現され、動植物の生態を身近に観察することができます。中央博物館は、千葉市にある本館の他、勝浦市に房総の海の自然を体験的に学べる「分館 海の博物館」を設置しています。また、香取市には大利根分館、大多喜町には大多喜城分館がありますが、両分館とも現在は休館中です。



1907年～1917年 ————— 2023

▲写真：過去と今を見比べる（香取神社楼門前戦利品）

千葉県立中央博物館では、「未来へつなぐ、いくつもの千葉」をキャッチフレーズに千葉県誕生150周年を記念して、県民の皆さまから募集した写真と中央博物館が所蔵する写真で本県の歴史を振り返る2つの事業を実施中です。

みんなで創る「ふるさとちば古写真デジタルアーカイブ」事業は、県民の皆さんが古写真を自由に検索・利用できるようにインターネット上の特設サイトで公開しています。県内各地の過去と現在の様子を見比べることができるコンテンツ（写真参照）も用意しています。「写真で見るちばのあゆみ」パネル巡回展では、古写真を中心に構成された複数のパネルで、明治から令和までの千葉県150年のあゆみを振り返るものです。展示は、中央博物館を皮切りに来年6月まで、県内の文化施設など20箇所以上を巡回します。

いずれの事業も、古写真に記録された県民の皆さん一人一人の思い出（いくつもの千葉）を未来にわたり引き継いでいくために企画したものです。本事業については、11月に千葉市で行われる全国博物館大会の分科会1「デジタルアーカイブと博物館DX」において、詳しい事例報告をおこなう予定です。

千葉県立中央博物館 住所：〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
電話：043-265-3111
URL：<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

- ・みんなで創る「ふるさとちば古写真デジタルアーカイブ」特設サイト
<https://150photo.pref.chiba.lg.jp/>
- ・「写真で見るちばのあゆみ」パネル巡回展 情報
<http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/contents/1684372536844/index.html>

も
く
じ

- 未来へつなぐ、いくつもの千葉
—千葉県立中央博物館—…………… 1
- 県内トピックス「浦安市郷土博物館の
リニューアル」…………… 2～3
- 特集 第71回全国博物館大会(千葉大会)
について-分科会の紹介—…………… 4～5
- 探訪 ちばの博物館
—第2回 佐倉市立美術館—…………… 6
- 展覧会案内…………… 7
- 日誌抄・編集後記…………… 8

No. **149**
2023.9.30

県内トピックス 「浦安市郷土博物館のリニューアル」

浦安市郷土博物館 主任学芸員 尾上一明

平成13年に開館した浦安市郷土博物館では、当初より海とともに暮らしてきた時代を歴史・民俗資料、情景再現等で紹介し、これからの浦安と海のあり方を考える指針となる展示を行ってきました。

とくにテーマ展示室「海とともに」では、自然と共働き、海とともに生きた浦安の、干潟、海、オカ（陸）での生活の特徴的な事象を中心に展示を構成していました。

開館後、20年を経過して、郷土博物館のリニューアル事業が計画されました。テーマ展示室のリニューアルについては、これまでの漁師町時代の展示に加え、埋立事業以降の「新しいまち」の展示を充実させ、二つの時代を対比的に配置することで、まちの劇的な躍進を伝えていくことを目的としました。

リニューアル事業の経緯

平成29年度に市の「施策・事業の総点検」を踏まえ、展示リニューアル事業の実施が決定され、平成30年度に「浦安市郷土博物館展示リニューアル基本構想」を策定しました。

令和元年度に、浦安市郷土博物館展示リニューアル基本設計・実施設計が完了、令和4年3月にテーマ展示室リニューアル着手。工事は、令和4年7月に展示室を閉鎖し、着工。令和5年4月にリニューアルオープンしました。

その後、工事は継続し、7月までに、企画展示室・視聴覚室・体験学習室の照明の入れ替え、エントランス・屋外展示場豆腐屋の展示機器更新が完了。令和5年11月、船の展示室のリニューアルオープンを予定しています。



浦安市郷土博物館・外観



屋外展示場

テーマ展示室の展示構成

新たなテーマ展示室では、テーマを「浦安の原風景」、「漁師町浦安」、「新しいまち浦安」、「浦安の自然」の4つに分けて、展示構成を考えました。

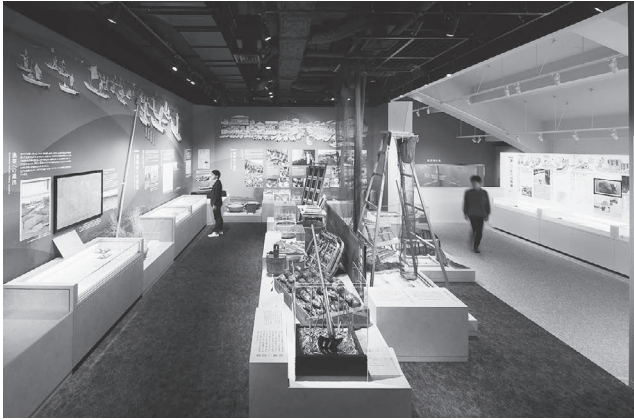
「浦安の原風景」では、干潟のジオラマに映像を投影し、かつてあった干潟の風景を再現しています。写真は、昭和30～40年代の干潟風景を集めている塚本洋三氏（元日本野鳥の会副会長）所蔵資料から紹介し、音声は、かつての干潟の音を収録した蒲谷鶴彦氏（元同会学術顧問）の作品を使っています。



原風景

「漁師町浦安」では、市内猫実地区で採集した地層剥ぎ取り資料を使い、土地の成り立ちを紹介し、江戸時代から明治時代にかけての歴史的な流れについて史

料を中心に紹介しています。また農業や漁業、海苔養殖、貝漁、流通などについては、実物資料に加えて模型や映像なども取り入れて紹介しています。



漁師町



土地の成り立ち

「新しいまち浦安」では、埋め立てに至る経緯を史料で紹介するほか、埋め立て工事の様子を模型と映像を使って展示しています。さらに大型スクリーンで、埋め立てから現在に至るまでの経緯を紹介し、埋め立て以降は年表形式での展示も行い、関連資料を随時見ることができるよう工夫をしています。



新しいまち

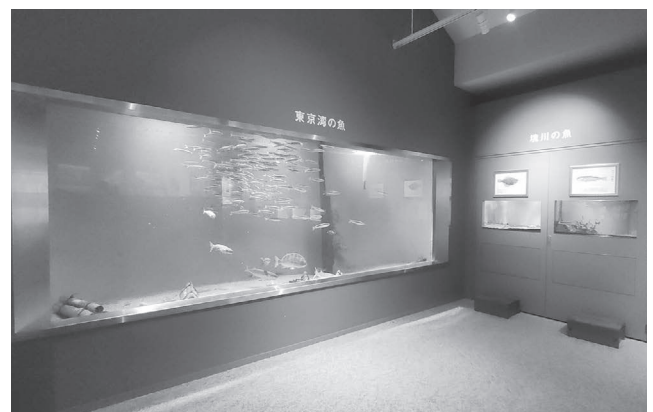


埋め立て

「浦安の自然」では、埋め立て以降の町の自然の変遷を紹介するとともに、市内で観察された植物や野鳥、干潟で生きる多彩な生き物たちを紹介しています。市内を流れる境川の生き物たちを展示し、また小型水槽、大型水槽で、境川や東京湾の魚などの生体展示を行い、人気を博しています。



自然



水槽

特集

第71回全国博物館大会(千葉大会)について

— 分科会の紹介 —

『ちばの博物館』No.147・148合併号(令和5年3月発行)でお伝えしたように、第71回全国博物館大会(主催:公益財団法人日本博物館協会、共催:千葉県博物館協会、千葉県、千葉市教育委員会、後援:文化庁、千葉市、千葉県教育委員会)が、令和5年11月15日(水)から11月17日(金)まで千葉県内で開催されます。第2日目(11月16日)の分科会では、千葉県博物館協会加盟館園など、県内外の博物館・文書館の実践例が報告されます。

ここでは、各分科会のテーマを設定したねらいを紹介します。

※分科会で報告する千葉県博物館協会加盟館園の実践については、本号所収の千葉県立中央博物館・佐倉市立美術館・浦安市郷土博物館の記事もご参照ください。

分科会1 デジタルアーカイブと博物館DX

DX(Digital Transformation)とは、デジタル技術を活用した変革(Transformation)を意味します。

改正された博物館法では、デジタルアーカイブの作成と公開が、博物館がおこなう重要な事業のひとつに位置づけられました。また、文化庁(文化審議会博物館部会)でも、「博物館DX」の重要性と推進の必要性が指摘されています。そうした動向の一方で、博物館や地域の特性を踏まえて、どのようなデジタルアーカイブやDXの取組みをすれば良いか、明確なビジョンを持っていない博物館関係者は多いのではないのでしょうか。

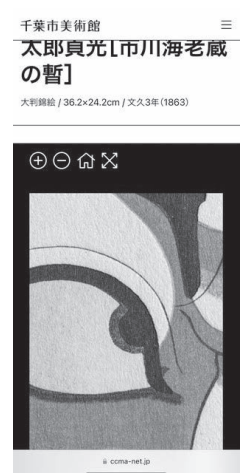
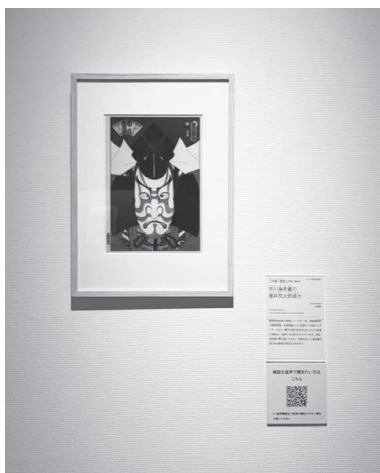
そこで、この分科会では、千葉県内外の4例を手がかりにして、これからの博物館におけるデジタルアーカイブやDXのあり方について議論します。

【報告】

- ① 千葉県誕生150周年記念事業「みんなで創るふるさと千葉 古写真デジタルアーカイブ」について
講師:玉井里奈(千葉県立中央博物館)
- ② デジタル博物館による地域振興の可能性について
講師:武田剛朗(大網白里市教育委員会)
- ③ 美術品のデジタルアーカイブとその公開
講師:松尾知子(千葉市美術館)
- ④ デジタルアーカイブ「琉球政府の時代」と利用審査
講師:小野百合子(沖縄県公文書館)

【コーディネーター】

高科真紀(国立歴史民俗博物館)



三代歌川豊国「市川海老蔵の碓井荒太郎貞光」大判錦絵／文久3年(1863)(千葉市美術館蔵)

左:「千葉市美術館コレクション選」での展示

中央:千葉市美術館ウェブサイト「所蔵作品>高精細ギャラリー」よりパソコン画面

右:千葉市美術館ウェブサイト「所蔵作品>高精細ギャラリー」よりスマートフォン画面

分科会2 博物館と多様な主体

改正された博物館法では、まちづくり、文化観光、福祉、国際交流といったさまざまな分野との連携による地域社会への貢献が、博物館の努力義務になりました。博物館関係者には、これまで以上に、博物館と関係が薄いと考えられていた、あるいは自らが博物館に意識を向けてこなかった分野や人びとに目を向けて、博物館・地域社会双方に良い影響を与える取組みが期待されます。

そこで、この分科会では、市立の3博物館園の事例と、あらゆる人たちを包摂する社会を目指すソーシャルインクルージョン（Social Inclusion）の理念を踏まえた「インクルーシブミュージアム」という概念を手がかりにして、博物館と多様な主体との連携の可能性・方向性について考えます。

【報告】

- ① 動物園の野生動物を用いた屠体給餌
～動物福祉と獣害問題をつなげる～
講師：中山侑（千葉市動物公園）
 - ② 対話型鑑賞ボランティアによる美術鑑賞プログラム ミテ・ハナソウ
講師：西川可奈子（佐倉市立美術館）
 - ③ 館山市立博物館と千葉大学デザイン文化計画研究室の連携—収蔵資料のデジタル化と活用
講師：青木宏展（千葉大学）
郭庚熙（千葉大学大学院）
宮坂新（館山市立博物館）
 - ④ インクルーシブミュージアムへの道のり
講師：安曾潤子
（インクルーシブミュージアム）
- 【コーディネーター】
小田真裕（船橋市郷土資料館）



上：万祝・型紙等の実物展示
下：うごく万祝

いずれも共同展示「デジ文展～デジタル化による地域の文化財の可能性～」

（会場：館山市立博物館、会期：令和2年2月15日～2月28日）

分科会3 地域の特性と博物館

千葉県の地域特性のひとつとして、通勤・通学等のために、都内に行き来する県民が多くいることがあげられます。都内へのアクセスが良い地域に住む県民にとって、博物館に行こうと思った時の選択肢は、県内の博物館だけではありません。その一方で、都内で過ごす時間が長い県民には、居住地周辺や千葉県のことを知る機会の少なさを感じている場合もあるようです。

博物館に求められる役割は、対象とする分野やテーマが似ていても、地域ごとに違いがあるはずです。この分科会では、都内で働く人たちのベッドタウンとして、住民の増加傾向が続いている県西部の事例と、それらの比較対象となる都内の事例の報告を手がかりにして、博物館利用者のニーズや博物館のあり方について考えます。

【報告】

- ① 浦安の博物館「これまで」と「これから」
—展示リニューアルを契機として—
講師：尾上一明（浦安市郷土博物館）
 - ② 地域の急成長による文化施設の目的の変化
講師：門脇伊知郎
（株式会社流山ツーリズムデザイン）
 - ③ 自然の少ない地域こそ、自然博物館の意義
講師：金子謙一（市立市川自然博物館）
 - ④ 変化するニュータウンと博物館
講師：橋場万里子（パルテノン多摩）
- 【コーディネーター】 島立理子（千葉県立中央博物館）



左：展示室での飼育展示

右：学芸員が小学校を訪れて自然観察
（市立市川自然博物館）

探訪

ちばの博物館

— 第2回 佐倉市立美術館 —

廣池千九郎記念館 学芸員 矢野 篤

千葉県博物館協会広報委員会では、県博協加盟館園の魅力を各館園の職員や利用者に伝えたいと考え、新コーナー「探訪 ちばの博物館」を企画しました。各委員が博物館を訪問し、専門分野の視点から展示や活動などの注目点を紹介します。



訪問日：令和5年8月25日(金)

写真左から

西川可奈子 (佐倉市立美術館、専門は教育普及・近現代美術)

矢野 篤 (廣池千九郎記念館、専門はアーカイブズ学)

佐倉市立美術館は城下町佐倉の中心部に位置し、1994年、旧川崎銀行佐倉支店の保存・活用を目的に開館した。房総・佐倉にゆかりのある作家の作品を中心に所蔵、展示している。訪問した際は、junaida 展「IMAGINARIUM」が開催されていた。

同館では2013年度から、対話による美術鑑賞プロジェクト「ミテ＊ハナソウ」を進めてきた。参加者が「ミテ＊ハナさん」と呼ばれるボランティアのファシリテーターとともに展示を鑑賞するプログラムだ。夏休み期間中だったこともあり、子ども連れの参加者が多くいた。5名の小学生が参加したグループに同行し取材させてもらった。



真剣な眼差しで作品を観る子どもたち

いくつかの作品の前でミテ＊ハナさんが、「この絵をみてどう感じた？」と質問を投げかける。子どもたちが思い思いに感想を述べると、それを受けてミテ＊ハナさんは「どうしてそう感じたの？」「どこをみてそう思ったの？」というような問いかけを重ねていく。作品の解説などは行われず、あくまで参加者の感想を引き出し、それをみんなで共有することに専念しているようだ。終了後、参加した小学生に感想を聞くと、「いろいろな人の意見を聞いて楽しかった」という答えが返ってきた。

■アーカイブズ学の専門家 矢野の視点

普通は黙々と作品を鑑賞することが求められる展示室で、会話をしながらの鑑賞は新鮮だった。作品の感じ方や解釈に正解はない。自分の感じたことを言葉にし、人の感じたことに耳を傾ける。そのような体験を通してより深く作品を理解し、楽しむことができるようになる。それがこのプロジェクトの意図するところだろう。

2013年～17年までの活動記録が「活動報告と評価」としてまとめられ、同館のホームページ上で公開されている。プロジェクトを立ち上げるまでのプロセスや成果、課題が詳細に綴られており、博物館・美術館関係者の参考になるだろう。また、全国博物館大会では、同館学芸員の西川可奈子さんが、「ミテ＊ハナソウ」による対話型鑑賞会について報告をするので、ぜひ聴講して頂きたい。



ミテ＊ハナさんは、ファシリテーター養成の研修を受けた市民ボランティア

佐倉市立美術館

◆所在地／千葉県佐倉市新町210

◆開館時間／午前10時～午後6時

(入館は午後5時30分まで)

◆休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)、

年末年始(12/28～1/4)

◆入館料／無料(観覧料は展覧会ごとに異なる)

◆問い合わせ先／043-485-7851

* 展覧会案内 *

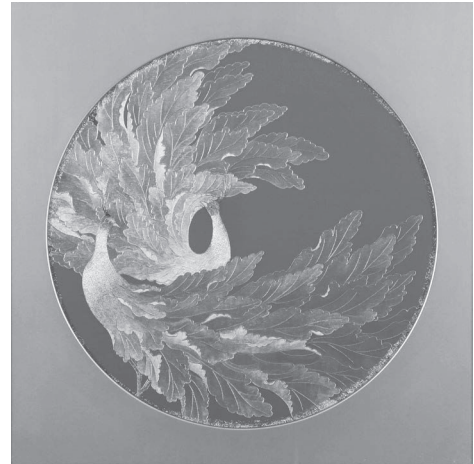
和洋女子大学文化資料館 令和5年度企画展

さいしゅう

彩繡の世界 —赤坂むつ子作品展—

和洋学園で所有する彩繡工芸家の赤坂むつ子氏（1931-2013）の作品を展示します。赤坂氏は和洋女子大学で約半世紀にわたって日本刺繡の教育指導に尽力するとともに、自身が確立した「彩繡」という繡技を探究し、多くの作品を生み出しました。「彩繡」とは絹糸や金糸・銀糸、金泥・銀泥を駆使して繡いあげるといふ、これまでに類をみない独自の刺繡表現です。

本展示では代表作である「佳日」、「はなどり」のほか、会期時節に合わせて「重陽」、「葛のはな」、「灼」など秋の気配を漂わせる作品も出展します。これらの精緻かつ絢爛な作品は、第一美術協会をはじめとする繡の世界においても高く評価されてきました。日本刺繡の新たな境地を開拓したともいえる超絶技巧の凝らされた作品群をご堪能ください。



「はなどり」(1983年)

<会 期>10月16日(月)～11月9日(木) 10:00～16:30 ※11月5日(日)は開館

<休館日>日曜日・祝日・10月28日(土)・11月2日(木)・11月6日(月)

<料 金>無料 詳細は和洋女子大学文化資料館HPをご確認ください。



「灼」(1978年)

印刷物

のことならおまかせください!!

チラシ・ポスター・POP・シール・名刺・封筒・
ハガキ・DM・カタログ・パンフレット・伝票etc

有限会社エーワンネットワーク

〒273-0015船橋市日の出2-2-13 第2ナカイビル102
営業時間/9:00～18:00 定休日/日曜・祝日

TEL.047(437)6208



関東産業株式会社
KANTO KOGYO Co., Ltd.

Protect Cultural Assets !!

IPM理念に基づいた
保存環境の調査～提案・施工まで
文化財保存対策なら当社にお任せ下さい

専用くん蒸庫完備
(各種薬剤対応)
28ml/9ml対応

各種くん蒸施工・環境調査・クリーニング・資料保存用品 ect

〒261-0002

千葉市美浜区新港58-2

TEL 043-241-1721 FAX 043-241-0080

http://www.kan-ko.co.jp

屋内外広告物全般 企画・製作・施工

ステンレス・アルミ製各種看板・電飾看板
道路標識・街路表示板・観光絵看板
各種横断幕・懸垂幕・のぼり旗
プラスチック製品加工

千葉県屋外広告業登録 第202号

有限会社 大窪美術工房

〒262-0002 千葉市花見川区内山町191番地

TEL 043(257)1221(代) FAX 043(257)1224

E-mail: art-studio.okubo@apost.plala.or.jp

日誌抄

事務局

■令和4年度第3回役員会

令和5年4月26日（水）10時～11時
会場／オンライン
内容／令和5年度千葉県博物館協会総会について

■令和5年度総会

令和5年5月24日（水）13時30分～14時30分
会場／千葉県立中央博物館
内容／①令和4年度退会館・令和5年度新規加盟館について
②令和4年度事業報告・一般会計収支決算報告・基金収支決算報告について
③令和5年度事業計画（案）・一般会計収支予算（案）・基金収支予算（案）について
④第71回全国博物館大会（令和5年度）開催について

調査研究委員会

■第1回委員会

令和5年6月21日（水）10時～12時
会場／オンライン
内容／①視察について
②MUSEUMちば48号について

■視察

令和5年6月27日（火）14時～16時
会場／産業技術総合研究所地質標本館
内容／施設見学及び事例紹介

地域振興委員会

■博物館資料救済活動

千葉県内で生じた下記の自然災害において、資料救済ネットワークを通して博物館資料に関する被害情報を集約した。
県内震度5以上の地震：令和5年5月11日（木）
1館から施設損傷の被害報告あり
県内震度5以上の地震：令和5年5月26日（金）
被害報告なし
台風13号：令和5年9月9日（土）
被害報告なし
なお、いずれも救済要請はなかった。



研修委員会

■第1回委員会

令和5年6月14日（水）10時30分～11時30分
会場／千葉市美術館
内容／令和5年度の事業計画について

広報委員会

■第1回委員会

令和5年8月4日（金）10時～12時
会場／船橋市郷土資料館
内容／令和5年度活動計画について

■第2回委員会

令和5年9月10日（日）10時～12時
会場／浦安市郷土博物館
内容／会報『ちばの博物館』第149号の編集について

編集後記

『ちばの博物館』第149号をお届けいたします。
加盟館園、各委員会の皆様におかれましては、情報提供または原稿作成にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

11月15日～17日に、第71回全国博物館大会が千葉県で開催されます。今回は、大会の各分科会で報告する加盟館園（千葉県立中央博物館・浦安市郷土博物館・佐倉市立美術館）の取組みなどを紹介しています。この会報が、大会の参加者にとって報告を聴くための一助になっていただければ幸いです。

（土屋）